

研究構想図 国語科：見方・考え方 対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。 体育科：見方・考え方 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わりと関連付けること。 算数科：見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。	教師の願い ○粘り強く、主体的に取り組んでほしい。 ○自分の考えをもち、人に伝える力を身に付けてほしい。 ○解決方法やアドバイスを人に聞けるようになってほしい。 教育目標 ○思いやりのある子ども ◎よく考える子ども ○明るく元気な子ども	時代の要請：3つの資質・能力 ○生きて働く知識・技能 ○未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等 ○学びを人生に生かそうとする学びに向かう力・人間性			
研究主題 自らの学習を調整し、主体的に学びに向かう児童の育成 ～自己調整力を高める指導改善～					
めざす児童像 課題解決に向けた方法を考えたり選んだりしながら、粘り強く取り組む児童。 <table><tr><td>1・2年生 友達の考えを真似したり、試したりしながら学習する児童。</td><td>3・4年生 自分の課題に気づき、それに合った工夫を選び、最後まで取り組む児童。</td><td>5・6年生 一人一人が課題をもち、その解決に向けて活動したり、学習状況を把握したりしながら粘り強く取り組む児童。</td></tr></table>			1・2年生 友達の考えを真似したり、試したりしながら学習する児童。	3・4年生 自分の課題に気づき、それに合った工夫を選び、最後まで取り組む児童。	5・6年生 一人一人が課題をもち、その解決に向けて活動したり、学習状況を把握したりしながら粘り強く取り組む児童。
1・2年生 友達の考えを真似したり、試したりしながら学習する児童。	3・4年生 自分の課題に気づき、それに合った工夫を選び、最後まで取り組む児童。	5・6年生 一人一人が課題をもち、その解決に向けて活動したり、学習状況を把握したりしながら粘り強く取り組む児童。			
研究仮説 ○～したいという動機付けを意識した授業を設計していくことで、児童のあきらめない気持ちや主体的に学びに向かう力を育ていけるであろう。	児童の実態 受け身の姿勢が強く、主体的に学習に取り組む力が育っていない。自分に自信がもてない児童、他者への関心が乏しい児童が多い。話し合う力や伝える力を育みながら、自信をつけていく必要がある。				
研究の内容 ○めざす児童像の具現化 ○主体的な学びを促す授業の在り方 ○粘り強い取組を伸ばす学習支援 ○主体的な学びを生み出す日常的な授業実践 ○自己調整力に内包する要素と児童の実態の変容	自己調整力の構成要素 ① 動機付け…学びに向かう理由や学ぶ目的に対する考え。 ② 学習方略…自己を動機付ける方法の選択・自己にとって効果的な方法の選択。 ③ メタ認知…自己の状況の客観的認識・自己にとって効果的な学習方法の選択。 ※教師が支援の必要な子供に、より効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することが大切。				
研究の方法 ・実技研修 ・OJT ・先行研究事例の調査・講師の先生による講義 ・試しの授業・研究授業	重要キーワード ○ふり返り ○自己効力感 ○AAR サイクル ○課題づくり及び課題選択（細分化・難易度） ○自己調整学習 ○メタ認知 ○学習方略 ○個別最適な学びと協働的な学び 失敗できる環境				